



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.8.8

No. 3265



宗谷岬をバックに、ひとときの休憩!  
※北海道は、これから冬にあかろ。しかし、心は熱い。

かく北海道は広い、何時間もかけての道中である。ドライバーの仲間には頭が下がる思いであった。名寄では、委員長、副団長と懇談する。その中で「私たち闘争団には、原地・原職奪還はありえない。勝つても戻る職場がないのです。赤字線廃止という攻撃は、色々な面で犯罪的とおもう」という話があり、北海道の厳しさにふれ、身がひきしまる。同時に政府・当局・JR総連への怒りが胸にこみあげてきた。

7月二四日  
ひさしぶりに自分の時間がとれた。調整日である。雄大な北海道の自然の真中に立って、分割・民営化攻撃や事業団での三年間の出来事、現在の心境などを振り返ってみた。

7月二五日  
今日は、札幌入りである。昼間、札幌狸小路でピラマキ決行。受け取りは最高である。素通りした人もわざわざ戻ってきた

8/31 地裁、10時  
※ 組合事務所公判

8/16 地労委、10時  
※ スト支配介入地労委、調査

8/25 本部、13時  
※ カノクル協総会

8/8 中央公園、12時30分  
代表参加  
※ 狹山闘争千葉県集會

## 雄大な大地に立ち上る

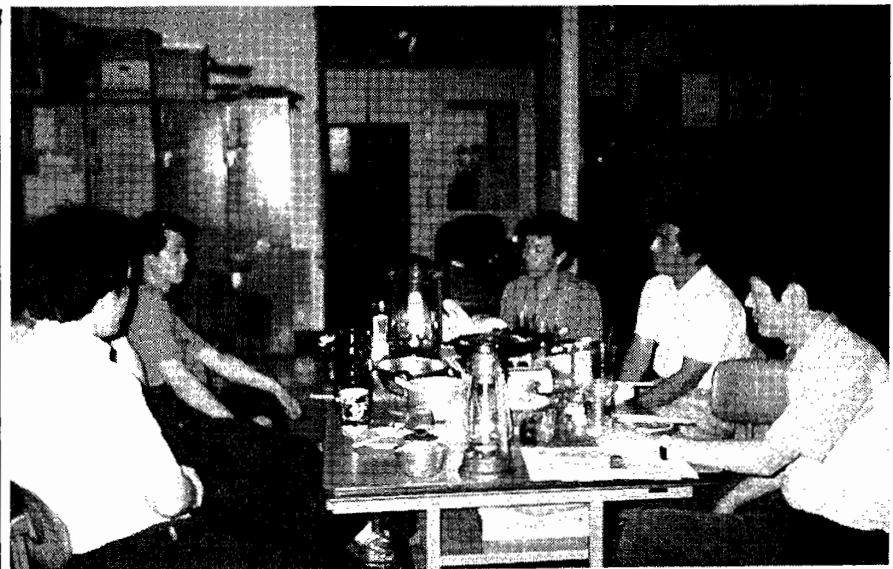
### 腹の底から熱い決意が

7月二三日

朝七時起床し、駅前で宣伝活動に入る。タクシンの運転士の一際高い「がんばれよ!」の声援を背に、稚内を後にして音威子府に向かう。

音威子府事業団は、青年部が交流・激励訪問したところである。何か行事が入っていて、あわただしかったが、心から歓迎され「勝利するまで共に頑張りましょう」と誓いあい、名寄に移動。移動するといつてもとに

高石正博さん(音威子府事業団被解雇者)の北海道オレ  
ク報告を八月三日号に続いて掲載します。



当居によって電気は切られラン70生活。(稚内) 時のたつのも忘れ交流会。(事業団)

て受け取り読んでいる。夜は交流会である。教師や地域で働いている仲間たちの質問せめである。彼らは動労千葉のことを、自分たちの事以上に真剣に考え、支援してくれているのだ。こうした姿に心がうたれる。夜遅くまで話し合う。

7月二六日  
今日で北海道オルグも終わりである。なにかアツトという間に七日間が過ぎたようだ。最後のピラマキを行い、解雇撤回・原職奪還を胸に、北海道の仲間たちとのキズナをしっかりと固め、これからも頑張りとうと、胸に誓い、旭川空港から帰路についた。

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらこう!